



くりがおか

学校便り NO.10

2024/2/19 (月)

栗ガ丘小学校

学校評価アンケート、ご回答ありがとうございました

—学校教育目標—

自ら学び 共に伸びゆく子ども ～豊かな心とたくましい体を育て～

- ①基礎学力を身につけ、
- ②互いに認め合いながら自らの可能性を伸ばし、
- ③活動に没頭する活力ある子どもを育て、

本年度の重点課題

ひと・もの・こととのかかわりを広げ、主体性を育む

家庭・地域と連携して児童一人ひとりを大切にされた教育活動を推進する。



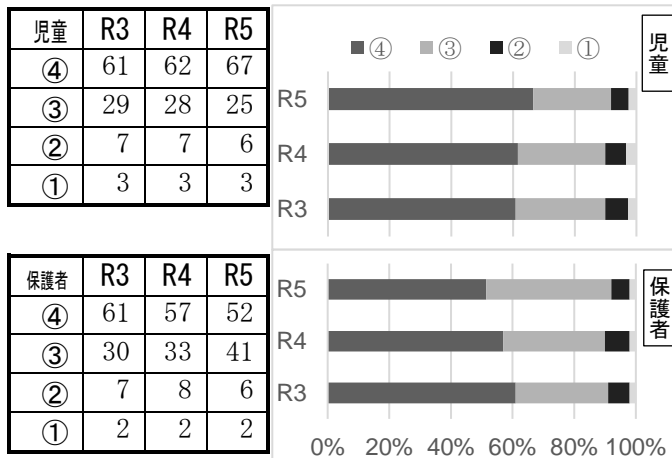
12月に実施した学校評価アンケートの結果がまとまりました。保護者の皆様にはお忙しい中、ご回答いただきありがとうございました。令和5年度は上記の学校目標、重点課題を据えて教育活動を進めてまいりました。今年度の学校評価アンケートの結果と分析をご覧ください。

<各項目の分析について>

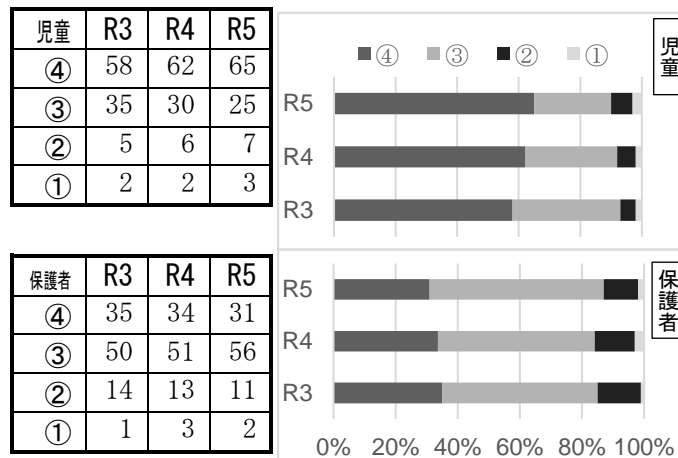
・「④そう思う」「③どちらかといえばそう思う」を合計した数値を【肯定的な回答の割合】、「②どちらかといえばそう思わない」「①そう思わない」を合計した数値を【否定的な回答の割合】として考察をします。

(選択肢はすべて ④そう思う ③どちらかといえばそう思う ②どちらかといえばそう思わない ①そう思わない)

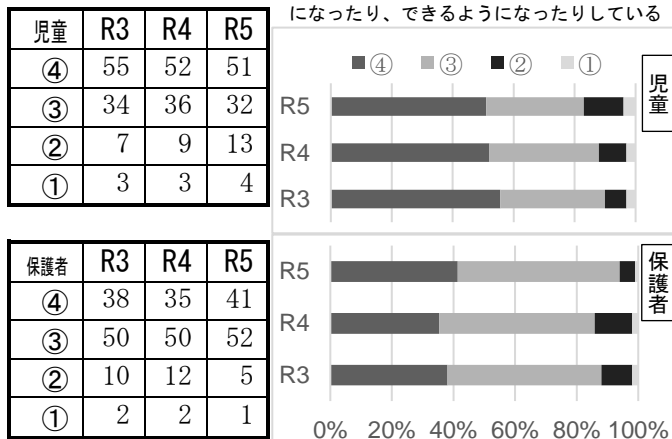
【問1】学校が楽しい(学校生活が楽しく、充実している)



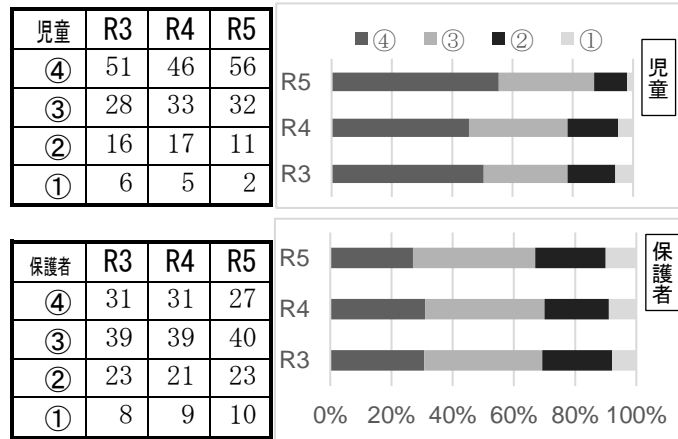
【問2】学校の授業は楽しく、わかりやすい

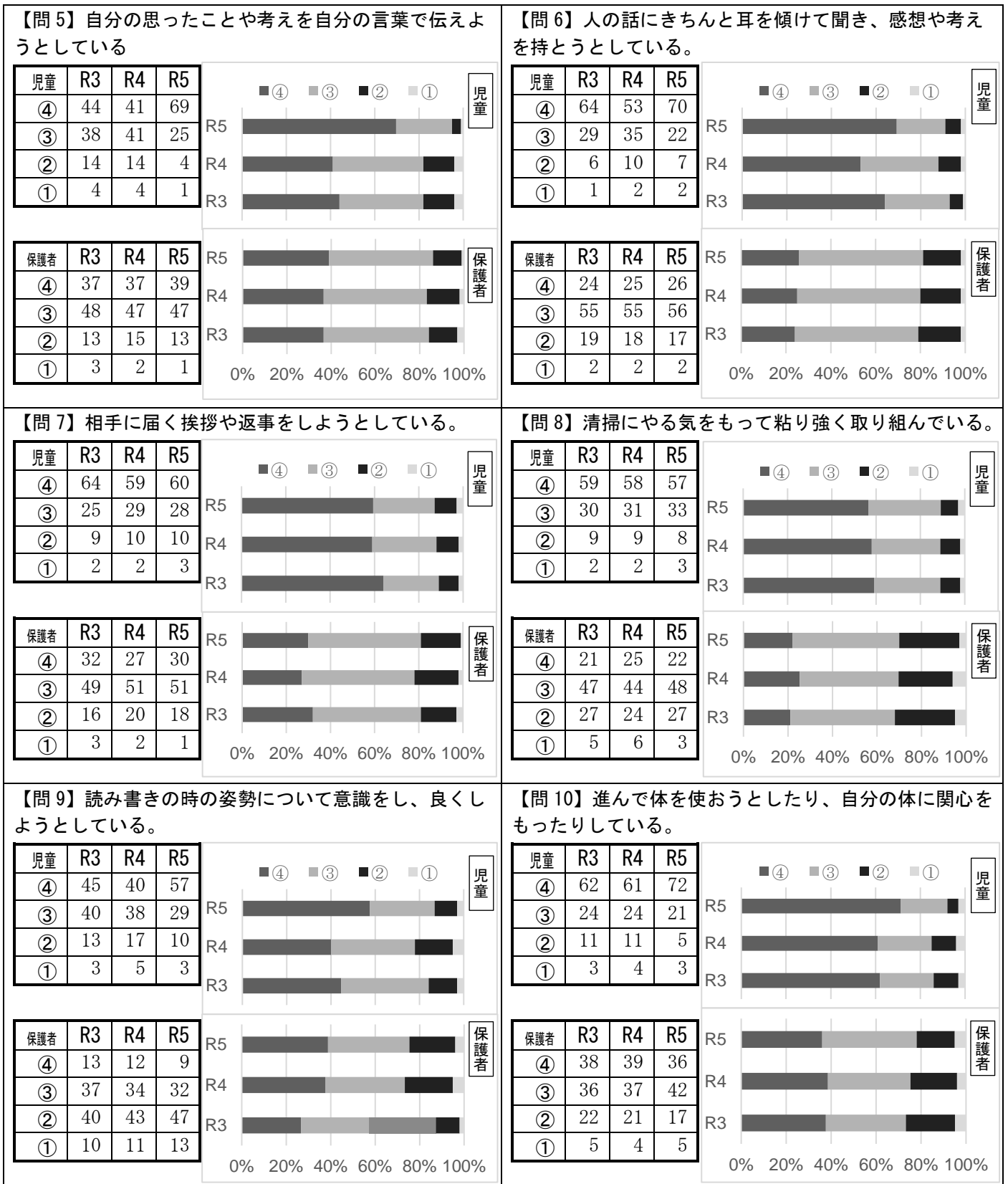


【問3】授業の中で、わからなかったことや知らなかったことがわかるようになったり、できるようになったりしている



【問4】家では、自分から進んで宿題や勉強をしている





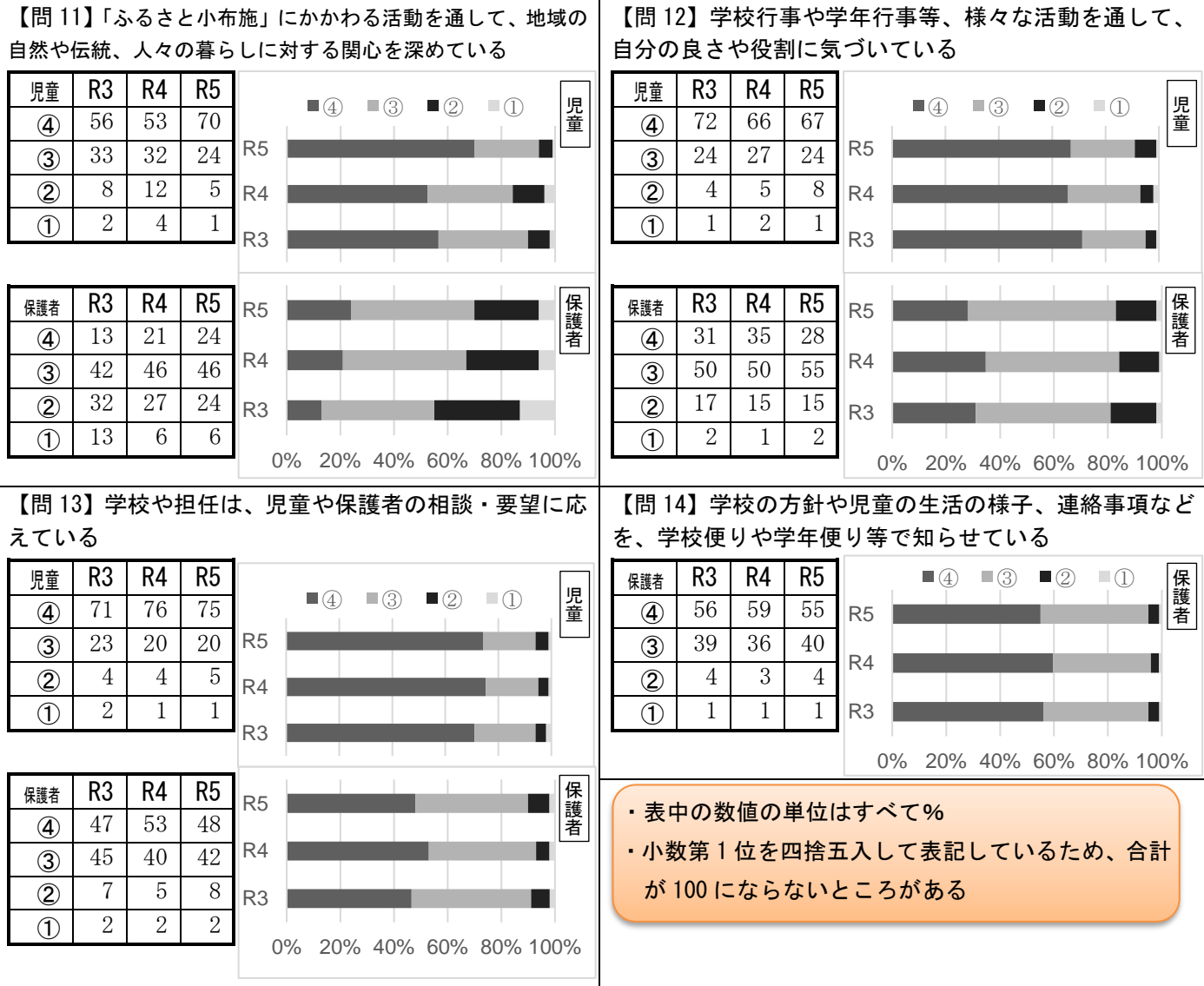
学習面にかかわる設問から

【問2】【問3】における肯定的な回答の割合は、児童、保護者とも昨年度と同様の結果を維持することができました。特に【問2】における児童の「④そう思う」は回答が年々増加し、今年度は65%を超えました。これは大きな成果であると考えています。タブレットの使用とも合わせながら、板書を工夫して1時間の中で「めあてと振り返りのつながり」を意識して授業づくりを進めてきたことがわかりやすい授業につながったと思われます。一方で【問3】では児童の「④そう思う」が3年連続減少しています。【問2】と合わせて考えると「授業ではわかるけど、家に帰ってからや次の授業になるとわからないことがある」と感じている児童が少なからずいると思われます。授業の後半での振り返りを確実に行うとともに、家庭

学習と授業を連携させることで、子どもたちがより確実にわかったと感じることができる学習サイクルをさらに工夫していく必要があります。【問4】【問5】【問6】は今後大切に育てていきたい「自分で考え、判断する力」をつけていくことにつながるものとなりますが、児童の「④そう思う」が【問4】では10%、【問5】では28%、【問6】では17%増加しています。今年度、主体性を育むことを重点課題として取り組んできたことやタブレットを使った課題への取り組みが少しずつ定着してきた成果と思われます。

生活面にかかわる設問から

【問1】では肯定的な回答の割合が、児童、保護者とも90%以上となり昨年度と同様に高い結果となりました。一方で「①そう思わない」の回答が児童、保護者ともに2%以上あり、何らかの場面で学校生活に困難を感じ、楽しくないと感じていることは明らかであります。一斉指導では補えない部分である可能性が高く、個別の支援をよりていねいに行っていく必要性を感じています。【問7】の「④そう思う」の割合が児童で1%増加、保護者が3%増加となりました。毎月行われる信州あいさつ運動をはじめ、児童会のあいさつ運動も定期的に行われており、日頃から相手意識が持てるような活動が継続されています。今後も外部の方からのお褒めの言葉を伝えながら、あいさつの持つ価値を子どもたちがさらに感じられるようにしていきたいと思えます。【問7】～【問10】の生活面全般について児童の回答と保護者の回答に開きがあるのは、これまでと同様の結果です。家庭、PTA、地域等と情報交換をしながら、連携して取組を強化していきたいと思えます。



その他の設問から

【問11】のふるさと学習については児童の「④そう思う」が17%増加し、肯定的回答が9%増加しました。保護者は肯定的な回答の割合は昨年度とほぼ同様の結果となり、昨年度までの増加傾向を維持するこ

とができています。今年度は、地域の方々から学ぶ機会が多く、子どもたちにとって必要感がある活動ができていたと考えられます。また、学級、学年、学校日より等で積極的に子どもたちの活動の様子を取り上げ、ふるさと学習への取組の様子をアピールできたことが保護者の理解につながったと思われます。【問12】～【問14】ではいずれも肯定的な回答の割合が80%を超え、多くが90%以上となりました。【問13】【問14】では肯定的な回答の割合は児童、保護者とも90%以上となり、昨年度とほぼ同様の結果となっています。学校の取組について評価をいただいておりますが、今後も日常的に相談しやすい関係を作っていくことが大切であると考えています。また、お便りのオクレンジャーを利用した配信の要望については、学年や学級で試験的に開始しています。今後も保護者の声を聞きながら、よりよい情報発信ができるように考えていきたいと思っております。

自由記述欄にいただいたご意見から

保護者の皆様からは「いつも学校を楽しみに朝出かけて行きます」「学校の様子を毎日楽しそうに話してくれます。行事や授業、美味しい給食、毎日本当にありがとうございます」など子どもたちの前向きな生活の様子をたくさん伝えていただきました。また、「2学期は、社会見学の様子に2時間くらいの課外活動が沢山あって、色々な所に見学に行き、お話を聞いたのがよかったと思います」「いろいろな集会を通して、子どももいろいろな事に興味を持つようになってきて良いと思います」など一つ一つの取組についても評価をいただくことができています。

子どもたちへの接し方についても「いつも、担任の先生にはきめ細やかに対応していただいております。大変感謝しています。また、ほかのクラス、ほかの学年や、クラブ、委員会活動の先生方とのやりとりについても、娘が楽しそうに話してくれます。いつもありがとうございます」「担任の先生が、いつも子どもに寄り添って日々を過ごして下さっていることが、子どもの話からも伺えます。自分に自信をつけて行く子どもの姿があり、大変ありがたいですし、安心できます」と評価していただいた一方で「『先生はこわい』そうです。子どもに良いところがあれば、先生からも本人に伝えてあげて欲しいと思います」「わからないことがあり質問すると前に説明したからと教えてもらえず嫌な思いをし、もう2度と質問したくないと言っていたことがありました。子供の質問には誠実に答えてほしいと思います」などのご指摘もいただいております。子どもたちが日々の生活で安心して満足感をもって過ごせるように、私たちが最も大切にしなければならない部分であります。これからも一層気持ちを引き締めて取り組んでまいります。

感染症対策について「体調が良いときにも、先生にマスクをしないと言われてるそうです。予防の意味でマスクをするか否かは、各家庭の判断に任せていただきたいです。一律にマスクをさせる時代は過ぎたと思います」「オクレンジャーに記載のある『登校時にはマスクを持たせていただき、可能な限り着用をお願いできればありがたいです』はいつまで続くのでしょうか。この先熱中症が心配される暑い時期も着脱は個人の判断にならないのでしょうか」などマスクについてご意見をいただきました。マスクの着用につきましては、令和5年2月の政府対策本部決定において、マスク着用の考え方が見直され、学校教育活動の実施に当たっては、4月1日以降、「マスクの着用を求めないことを基本とする」とされました。栗が丘小学校においてもマスクの着用を求めないことを基本とし、感染症の注意報発令時など感染が大きく拡大している場合には、一時的に場面に応じた適切なマスクの着用を広く呼びかけてまいりました。これについては、文部科学省より発出された【学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2023.5.8～）】の「第3章 感染流行時における感染症対策について」にある「地域や学校において感染が流行している場合などには、教職員がマスクを着用する又は児童生徒に着用を促すことも考えられますが、そういった場合においても、マスクの着用を強いることのないようにしてください」の指示に則ったものであります。オクレンジャーでの「登校時にはマスクを持たせていただき、可能な限り着用をお願いできればありがたいです」の記載も同様です。これについては、期限等は定められておりませんので、文部科学省より変更の指示があった場合は、お知らせいたします。

タブレットを使用した学習について「授業参観の授業や、タブレット授業を見させていただき、とにかく面白い授業で、子どもが惹きつけられる魅力ある授業だと毎回思います。そして、子どもたちが伸び伸び受け応えていて、親として見ていて嬉しくなります」「文字を書くことを面倒くさがり文章を書くことが苦手だったので、作文等が苦手なのかと思っていました。タブレット学習で説明や感想などを入力出来ていることにビックリしました。タブレットでふりかえりや表現することも大切なんだと実感しました」と評価していただきました。タブレットの利活用については、学年や学級によってばらつきがありますので、今後も先行して実施が進んでいる学級の様子を参考にしながら、全校での有効かつ安全な活用に向けて、さらに職員の研修等を行っていく予定です。

「学年・学級便りをたいへん丁寧につくっていただいております。学校やクラスでの様子が非常にわかりやすく、とても助かっています。本人から普段の出来事を家では細かく説明してくれないことも、お便りのおかげで知れています」「紙の書類が多く、オクレンジャーに添付していただく形でも良いのにと感じます」「感染症でお休みの時に連絡帳を届けてもらうのは気がひけるので、欠席連絡や遅刻の連絡はスマホで対応できるようにしてほしい」など今年度も学校からの情報提供、学校との連絡方法などに係るご意見、ご要望が多数寄せられました。これまでの方法とネットを利用した方法それぞれのメリット・デメリットを十分に検討し、よりよい発信、連絡ができるように考えていきます。

全てのご意見を掲載できずに申し訳ありません。保護者の皆様からいただいたご意見は、全職員で共有させていただきました。いただいたご意見を来年度の学校運営にいかしていけるよう、プロジェクトチームを組んで検討してまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

【文責 教頭 北澤 佳一】